

世界に飛び立つ人材と 地域社会で活躍する グローバル人材の育成

平成27～30年度 選定



長崎国際大学

取組のポイントや補助効果等

- ◆ 国際化ビジョンの策定と全学的な推進体制の構築
- ◆ 改革総合支援事業による施策の明確化、その他各種補助事業の活用

長崎国際大学は、長崎県と佐世保市及び地元経済界からの支援による「公私協力方式」によって2000年に開設し、地域に生まれ、地域とともに学生を育て、発展してきた大学である。キャンパスをハウステンボス町内に構え、現在は3学部4学科を有する総合大学にまで成長している。

取組の目的・背景

「人間尊重を基本理念に、より良い人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にす社会の建設に貢献する教育・研究」を実現することを建学の理念に定め、「いつも、人から。そして、心から。」をモットーとし、教育目標である「専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成」、「地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成」、「異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成」を実践している。

そして、急速にグローバル化が進展する社会において、地域の国際化をリードする「知の拠点」としての役割を担うべく、国際化ビジョンにおいて、「多様な文化と知性が集まる国際交流の場を構築し、国際社会で活躍するグローバル人材を育成することを目指して、教育・研究・社会貢献の各分野で更なる

対応を推進する」ことを目標とし、グローバル、グローバル人材の育成に向けた教育改革を推進している。

取組内容

国際化ビジョンの達成に向けた大学の国際化戦略として、次の6つの多岐にわたる取り組みに対して目標を策定の上、2015年度からの5か年で計画を進めている。

≡ 国際的教育環境の整備

外国人教員及び職員を積極的に登用することで、全学共通科目国際理解分野における語学科目の増設及び英語による授業科目の充実を図り、加えて、日本人と多国籍留学生在が語学をともに学び、多文化を理解する交流の場であるグローバルトークを提供するなど、豊かな国際感覚を身につけることが可能な環境の整備に力を入れている。また、大学間連携共同教育推進事業に採択され、長崎県依頼のベトナム人高校生との交流会や近隣に滞在する外国人との交流会、各種ボランティア等を地域貢献の一環として開始し、平成28年度末をもって国の財政支援が終了したことから、事業内容の見直しをした。現在は学生主体による地域協働型の事業として、地域との交流を継続的に深めつつ、取り組みを発展させている。



グローバルトークの様子

≡ 大学カリキュラムのグローバルスタンダード化

海外の交流協定大学と協力して国際的に通用する共同カリキュラムの構築を目指して、さまざまな課題等を整理・検討している段階である。これらが進展すれば、短期交換留学生の単位互換及びダブルディグリー制度等をより実質的なものとして推進することができるなど、大学の国際化に向けた取り組みとして今後期待される。

≡ 海外大学とのネットワーク拡大

教員や学生の交流及び日本人学生の留学先確保など学術交流を目的に、協定校を充実させている。2019年度にはアジア諸国59校、欧米14校、オセアニア諸国4校の計77校まで増加させ、国際化ビジョンで設定した数値目標60校程度を上回る結果となった。

これは、「グローバルカレッジネットワーク」というイギリスのチチェスター大学を幹事校として発足した大学間交流のネットワークの活用及び在福岡米国領事館の協力によるところが大きい。海外の大学と接する機会を最大限に活用し、大学の特色をPRすることで、協定校の増加につなげている。

≡ 日本人学生の海外留学を促進

学生の海外留学を促進するため、留学支援体制の強化及び海外インターンシップ等の多様な留学・語学プログラムを構築している。

学生の海外留学動機づけの施策としては、

「インターナショナルフェアin NIU」を開催し、そこで先輩の留学体験談や在福岡米国領事館担当者、海外大学協定校の留学担当者など、国際的マインドを持った人物からの講演を行っている。また、国際交流スペースを活用し、短期留学プログラムのためのミニ相談会を実施している。参加する学生は低学年で、海外経験のない学生がほとんどであるため、学生の留学に対する不安の解消につながっている。

観光の専門知識を持ったグローバル人材を育成することを目的として設置した国際観光学科グローバルツーリズムコースでは、2年次に半期から1年の留学を必修としている。そのため1、2年次に英語力をつけるための科目を集中的に設定しており、1年次の夏休みに1ヵ月間かけて実施する英語研修は、アメリカ等の協定大学が構築したオリジナルの内容であり、特徴的なプログラムとなっている。

学生の海外留学が効果的なものとなるようにさまざまなプログラムを構成し、学生をサポートしている。



インターナショナルフェア in NIUの様子

≡ 外国人留学生の積極的な受け入れ

英語による授業科目を開講することで英語圏からの留学生を増やすとともに、成長著しい東南アジア諸国からも積極的に受け入れるなど留学生の多国籍化を進めている。

当大学は、国際と冠する大学であり、国際化を進めるうえで優秀な留学生の誘致は重要

であると考えている。そのため、在籍留学生の比率を全体の約1割強に設定し、優秀な学生の募集に努めている。国際化ビジョンにおける目標数値は、交換留学生、科目等履修生、特別聴講生含む留学生を300名程度に設定し、2019年度は336名の留学生を受け入れており、目標を達成している状況である。

留学生支援を行うため、教員組織である国際交流委員会と職員組織である国際交流・留学生支援室が一体となった国際交流・留学生支援センターを設置し、募集活動及び入試から在学中のあらゆる支援等を総合的に実施し、授業では日本語教員養成課程学生のSA等の配置による学習支援を行っている。また、留学生に対しては、日本語能力のレベルに応じて、授業料を第1種として50%、第2種として30%減免し、学習及び日本語能力資格取得に向けたモチベーションを維持させるため、各年度末に年間修得単位数及び年間履修登録科目のGPA値をもとに見直しを行っている。さらに日本人学生も交えた地域との連携活動である異文化理解教室や、地域の民泊への外国人観光客誘致に向けた取り組み、ハウステンボス等における接客を含む良質なアルバイト推奨など、生活に密着した日本語力習得と向上への各種試みに加えて、本年度後期より日本人学生一人を学習パートナーとして各留学生に割り当て、日本での生活や授業への付き添いなどを行う総合的な習熟支援体制を試験的に実施している。

≡ 地域と連携した国際化の推進

産官学が一体となった留学支援組織を構築し、留学生の学生生活に対するサポート機能を向上させることのみならず、地域社会のニーズにあった活動を実施することで、地域の活性化や国際化に貢献している。

当大学を中心とした長崎県北の4つの高等教育機関と佐世保市、佐世保商工会議所の産官学が一体となった留学生支援組織である

「佐世保地域留学生支援交流推進協議会」を立ち上げ、学生間及び地域住民との交流を目的にスポーツ大会、多国籍料理イベント、地元観光施設で留学生の視点を反映させるべく佐世保観光モニターツアーを毎年実施し、それぞれのイベントには日本人学生も参加することで、大学と地域との交流機会の増加につながっている。

■ 外国人留学生の日本国内就職支援

国際化ビジョンの個別目標以外に力を入れている取り組みとしては、留学生の日本国内就職支援が挙げられる。

2014年度よりキャリアセンターに留学生就職担当者を配置し、留学生が相談に訪れた際スムーズに受け入れることができる体制を整えている。そこでは、留学生向けガイダンス、受け入れ企業の開拓及び見学ツアーの立案・実施と個別相談への対応業務を行っている。国内就職希望留学生に対し、ガイダンスを通じて日本独自の新卒一括採用のメカニズムや商習慣、履歴書の記入方法から面接対策まで国内での就職活動に必要な知識を指導している。受け入れ企業の開拓では、技術・人文知識・国際業務の就労ビザで就職する学生が大部分であるため該当する業務を有する企業の訪問や学外の留学生支援団体等と連携を取り情報収集に努め、随時留学生へ紹介している。しかしながら一連の就職支援の中で最も力を入れているのが個別対応である。日本語能力や希望業種も一人ひとり違うため、面談を重ねながら受け入れ先を紹介していく地道な作業を継続し、信頼関係を深めている。

■ 地域・国際社会で貢献できる人材育成

これらの取り組みを通じて、地域に根差した大学として、世界に飛び立ち国際社会で貢献できる人材と、地域社会で活躍できる人材の双方を求めて学生を育てている。

これは、当大学の教育目標の具現化であると同時に、大学が所在する長崎県のニーズに

応えるものである。九州地方においては全般的に過疎化が進行している。長崎県の若者人口流出率は極めて高くなっており、学生の地域定着を促すことは当大学の責務と考えている。

この実現に向けて、私立大学等改革総合支援事業、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)、大学間連携共同教育推進事業(GP)など、国の補助事業を積極的に活用しながら国際化ビジョンを推進している。

また、これらの取り組みについては、日本人学生だけではなく、外国人留学生も同様に適用し、世界で活躍するグローバル人材と地域で活躍するグローバル人材の育成を全学的に行っている。

実施体制

全学的な国際化推進に関する方針等の決定については、学長をトップとしたグローバル推進協議会で実施し、実際の事業の企画や運営については、国際交流・留学生支援センター長のリーダーシップにより遂行している。各種決定事項は、教員組織である国際交流委員会で検討を行い、国際交流・留学生支援室は、グローバル推進全般のサポート、取り組みのスケジュールや進捗状況の管理と実務を担当している。

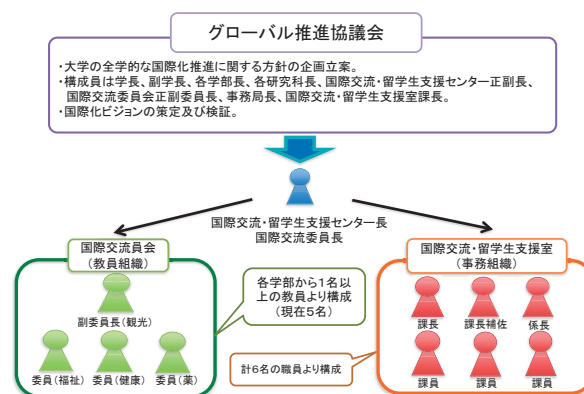
成功のポイントや苦労した点

私立大学等改革総合支援事業「グローバル

化の推進」への申請を行うことで、大学の国際化の必要性や具体的な施策が明確になったことが成功につながった。そして、そのうえで学長のリーダーシップのもと、全学組織であるグローバル推進協議会の中で本学独自の方向性である「国際化ビジョン」を作成し、学内に周知することで、スピード感をもって取り組むことができた。

今後の課題・展望

今後の課題としては、国際化ビジョンにも掲げている「大学カリキュラムのグローバルスタンダード化」である。この課題を克服するため、まずは海外の大学とのダブルディグリー制度の構築に向けて、学則変更及び全科目シラバスの英語化やクォーター制導入を検討している。大学院の観光学専攻においては、すべて英語によって修了できる教育課程の導入を検討し、国際大学としてのさらなるグローバル化を目指す。



国際化に向けた実施体制

改革成果を示す客観的な数値データ（抜粋）

実績項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外国人留学生数	196人	205人	218人	233人	243人
外国人留学生の日本国内就職率 (就職者/留学生)	58.8%	65.6%	57.8%	45.3%	—
外国人留学生の日本国内就職率 (就職者/留学生の就職希望者)	96.8%	100.0%	92.5%	97.1%	—
派遣交換留学生数(日本人)	17人	14人	14人	19人	36人
短期留学者数(日本人)	16人	19人	35人	39人	23人
留学生退学率	7.0%	4.4%	7.6%	5.8%	—